

あなたの学校に 性について悩んでいる子どもはいませんか

性別に違和感をもちながら体の性に合わせて生活することに苦痛を感じている子、同性を好きだと気づいて戸惑う子、自分の性別が女性なのか、男性なのか、両方なのか、どちらでもないのか、わからないと感じている子、性に関わって容姿や言動について発せられる心ない言葉に傷ついている子など、性の在り方について悩んでいる子どもがいます。

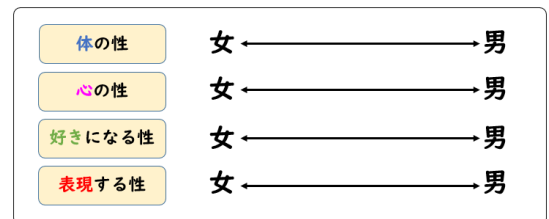
全ての子どもたちが自分らしく生きていくために、私たちは性的マイノリティについて授業で扱ったり、個別の指導・助言を行ったり、教師自身が性別・性自認・性的指向・性表現などについての認識を深めたりすることが求められています。

この資料は、「LGBTQって?」「性的マイノリティの子どもへの対応Q&A」「トランスジェンダーの方の声」「相談窓口」から構成した教職員向けの指導資料です。自分の性について悩んでいる子どもを支援するためにご活用ください。

1. LGBTQって?

生まれた時の性別である「体の性」と、自認している「心の性」、服装や言葉遣いなど「表現する性」は一致するとは限りません。また「好きになる性」は異性だけとは決まっていません。性の在り方は多様であり、一生の中でも揺れ動きます。他人が決めるものでもありません。生まれながらもっている、その人の個性と捉えることができます。LGBTQとは、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、クエスチョニングの頭文字をとって組み合わせた性的マイノリティの人々を表す言葉です。

自分の「性」は、線のどのあたりにあるのか、心の中で印をつけて、自分の性について考えることで理解を深めましょう。「当てはまらない」「当てはめたくない」でもいいです。



『セクシャルマイノリティありのままのきみがいい！セクシャルマイノリティについて』（汐文社）にある図を『あけぼの人間に光あれ』に掲載されたものから引用

L	レズビアン	女性として女性が好きな人
G	ゲイ	男性として男性が好きな人
B	バイセクシャル	男女どちらにも性愛感情を抱く人
T	トランスジェンダー	生物学的な性と性自認が異なる人
Q	クエスチョニング	性的指向や性自認が明確でない人

大切にしたいことは、誰かをLGBTQ等に当てはめるのではなく、性の多様性を理解することです。性的マイノリティが特別な存在という認識ではなく、ごく自然なことで、性の在り方は人それぞれ違う、という認識に立つことが必要です。

さらに、他者に性的に惹かれることのないアセクシュアル、好きになる際相手の性別が条件にならないパンセクシュアル、自分の性のあり方が男女どちらかに定まっていない・定めたくないXジェンダーなどがあります。

カミングアウトとは…公にしていなかった、性的指向や性自認、戸籍上の性別等を、本人が他人に伝えること

アウティングとは……公にしていない性的指向や性自認、戸籍上の性別等を、他人が当事者本人の了解を得ずに暴露すること（当事者の保護者にも本人に無断で伝えるとアウティングになります）

2.性的マイノリティの子どもへの対応Q & A

Q1. 子どもから「自分はトランスジェンダーだと思う」等のカミングアウトをされたら、どうしたらいいでしょうか。

A1. まずは、子どもの話を聞いて受け止めてください。今、何に困っているのか、どんなことをしてほしいのかを確かめましょう。

- ・自分がトランスジェンダーだと判断するまで、「自分の変なのかもしれない」「みんなと違っていけないことなのかも」と、誰にも打ち明けられず悩んでいたかもしれないことに配慮しましょう。
- ・「この人になら打ち明けられる」という一大決心をしてあなたにカミングアウトしてくれたと思います。その思いを受け止め「打ち明けてくれてありがとう」と伝えましょう。
- ・他には誰に相談したのか、親や家族に相談しているのか、例えば学校のどの先生になら話してよいかを確かめましょう。
- ・1回の相談ですべてを聞き出すのではなく、当事者本人が話せるところから話を聞き、受け止める側も、当事者が何を求めているのか確認して話を聞きましょう。



不適切な対応

【表面的な励まし】

「気にしなくて大丈夫！」

【訴えや気持ちを否定】

「そんなことないと思うよ」
「気のせいなんじゃない？」

【相手の気持ちを確かめない】

「すぐ、他の先生や親と相談して対応を考えるね」



好ましい対応

【じっくり相手の話を聴く】

「話してくれてありがとう」

【その子自身のありのままを認める】

「そう思うんだ。苦しかったね」
「話せるところから話して」

【相手の気持ちを確かめる】

「あなたはどのようにして欲しいのかな」
「誰にだったら話してもいいかな」

Q2. どのようなことをすると、アウティングになるのでしょうか。

A2. 当事者本人が、話しても大丈夫だという人以外に話すことはアウティングになります。本人の了解を得ないアウティングは人権侵害になります。

- ・学校にとっては「保護者にも知っていてほしい内容」ではありますが、当事者本人が親に相談していないケースは多くあります。「親だからこそ話せない」という子もいます。当事者本人の意向を確かめることなく保護者に相談するとアウティングとなります。
- ・仲のよい友だちにも配慮してもらいたいからと、本人の許可なく仲のよい友だちに、その子が悩んでいる様子などを聞き出すこともアウティングになります。



Q 3. 性的マイノリティの子どもが安心して過ごせる学級にするにはどうしたらいいでしょうか。

A 3. 性的マイノリティについて正しく理解し、性の在り方について丁寧に向き合うことができるような学級を作りましょう。

- ・子どもがウケを狙って「ホモ」「レズ」「おとこおんな」等の性的マイノリティの方にとって不快な言葉を使っていたら、その場で毅然とした態度で指導します。教師も日頃から性の多様性について人権感覚を研ぎ澄まし、差別的な言動をしない・見逃さないよう気を付けましょう。
- ・性的マイノリティに関する図書を用意したりポスターを掲示するなど、気軽に性の多様性について話題にしたり、学ぶことができるようにしましょう。

授業例 「あけぼの 人間に光あれ」（長野県同和教育推進協議会編）を活用

①「自分の種類とその性別」小川一花さんの作文を読む。

- ・分かったこと、分からないこと、これから学びたいこと
- ・あなたにとって「普通」とは何か

<課題を持つ>



②LGBTQについての基本的なことを学ぶ

③「体の性」「心の性」「好きになる性」「表現する性」について

自分の性について考え、様々な性の在り方について考える。

<知識を得る>



④助け合っていくために、今自分ができることを考える。

⑤動画「りんごの色」を視聴し性の多様性について理解を深める。 <自分事とする>

※動画「りんごの色」は法務省 YouTube チャンネルで視聴できます

Q 4. 学校から家庭への働きかけはどのようにすればよいのでしょうか。

A 4. 性の在り方に悩む子どもの安心・安全のために、お互いに協力、連携していきましょう。

- ・親は、自分の子どもが性的マイノリティであることを知った時に、驚き、ショックを受けることが多くあります。また、「育て方が悪かったのではないか」と自分を責めたり、「病気ではないか」「治るのか」と心配する親もいます。学校は、まずは親の気持ちや不安を受け止め、一緒に考えるよう進めていきましょう。
- ・親は、子どもから「自分は性的マイノリティである」ことをカミングアウトされた場合、子どもは相談できず悩んでいたろうことを想像し、分かってもらいたくて勇気を出してカミングアウトしたことを理解し、何に困っていて、どんなことを希望しているのかを把握し、学校と家庭が、子どものこれからの安心・安全な生活のため、協力、連携して当事者本人を支えていくことを確認しましょう。
- ・学級PTA懇談会等で性的マイノリティについて話題にし、保護者の方にも基礎知識を身に付けていくとともに、自分の子どもや友だちがカミングアウトした時に受け止められるよう、心の準備をしていきましょう。

3.トランスジェンダーの方の声

長岡春奈さん（人権教育講師派遣事業講師）

男子として生まれましたが、保育園の頃から、自分は女の子だと思っていました。小学校入学を控え、赤いランドセルが欲しいと伝えたのに、実際には黒いランドセルが届きました。とても悲しかったです。

小学校では6年間クラス替えがなく、同じ友だちと過ごしました。暴言や無視など、いじめられていました。その時は「自分が悪い」と思っていました。なので、その辛さは誰にも言えませんでした。

中学校では学ランを着ていましたが、全然似合っていませんでした。セーラー服を着たいと思っていました。ある日無理やり友だちからセーラー服を着せられました。そんなふうに着たくはないのです。本当に辛くて手首を切りました。浅い傷で、自分で治療して、次の日も学校に行きました。そんな時、担任の先生に呼ばれました。先生は、いじめられているのを知っていてくれて、進路相談にのってもらいました。

高校は自分以外、同じ中学校からは行かなかったのはいじめられませんでした。制服はなく、女の子が多くて、充実した3年間を送りました。

小泉涼さん（ダイバーシティ信州代表）

女子として生まれましたが心は男子でした。

実際に私が経験した学校生活を送る上で嫌だったこと困ったことのベスト5を発表します。

第5位は宿泊学習の時のお風呂。自分の身体を異性だと思っている人たちの前にさらけ出さなければならない状況は本当に辛かったです。

第4位は健康診断、発育測定です。自分の体を他の人に見られたくないという理由で嫌でした。

第3位はプールです。水着を着ると体の線が出て、体格や体形が出てしまうということで、これも非常にストレスが大きかったです。

第2位は制服です。制服のスカートが本当に苦痛で「制服がない」ということを第一条件に高校を決めたくらい制服が嫌でした。

1番嫌だったことは、トイレです。なんで嫌だったかと言いますと、中学時代、同じクラスに好きな女の子がいたんです。その子に自分が女子トイレに入るのを見られたくない、という思いがありました。中学校時代は、学校ではトイレに一度も行かなかったです。今思うと、相応体に悪いことしていたなと思います。

4.相談窓口

【性的マイノリティについて相談したい】

○よりそいホットライン 0120-279-338

セクシュアルマイノリティ専門ライン **[4]**性別の違和や同性愛などに関わる相談

※ガイダンスが流れたら、**[4]**を押すと、セクシュアルマイノリティ専門ラインにつながります。

○SNS チャット「困りごと情報提供」セクシュアルマイノリティの相談 <https://comarigoto.jp/>

※返答は水・金・日曜日 16～22 時です。左記日時で

相談をいただいた場合はリアルタイムで返答します。

右のQRコードから相談できます。



【心の悩みを相談したい】

○学校生活相談センター

電話相談 0120-0-78310

(24 時間子ども SOS ダイアル)

メール相談 gakko-sodan@pref.nagano.lg.jp

○LINE 相談「ひとりで悩まないで@長野」 毎週水曜日 18 時～21 時（相談終了 21 時 30 分）

※「友だち登録」してから相談してください。令和 4 年度登録は「長野県 LINE 相談」で検索してください。

○長野県子ども支援センター 月～土 10:00～18:00

0800-800-8035

○チャイルドライン 月～土 16:00～21:00（金は 23:00）

0120-99-7777 ※18 歳まで

○子どもの人権 110 番 月～金 8:30～17:15

0120-007-110

【参考文献】

文部科学省「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」平成 27 年
日高庸晴「子どもの“人生を変える”先生の言葉があります 2021」令和 3 年
長野県「性の多様性を尊重するための職員ガイドライン WE ARE “ALLY”」令和 2 年 3 月
長野県同和教育推進協議会編「あけぼの 人間に光あれ 6 訂版」令和 3 年 4 月